

Oscar Wilde

The Picture of Dorian Gray

日本大学 大川 裕 編注

〔ドリアン・グレイの肖像画〕

A5・上製・80+Notes 20pp. 定価1,500円

世紀末の寵児ワイルドの唯一の長編小説であり、彼らしい個性がもっとも強く打ち出されており、おそらく彼の全貌がうかがわれる作品である。また、彼自身の運命を象徴している点においても注目に値する一作である。したがってワイルドだけでなく、19世紀末を知るうえでの必読書といえよう。

Oscar Wilde

Wilde's Letters to Bosie

日本大学 大川 裕 編注

〔ボジーへの手紙〕

A5・上製〔写真豊富〕60+Notes 61pp.〔詳注〕定価1,500円

世紀末の審美家オスカー・ワイルドから名門の若い貴族アルフレッド・ダグラスへ宛てられた書簡集。年代順に配列された35通の書簡によって二人の出会いから破滅に至るプロセスを追い、さらにその背景が理解できるように写真・資料を盛込んだ詳注を付している。

Oscar Wilde

Salome

日本大学 高山 宏之 編注

〔サロメ〕

A5・上製 51+Notes 11pp.〈挿画入〉定価1,200円

「サロメ」はワイルドの5つのロマンス劇の中で今なお生きつづけている唯一の作品であり、彼のベストの一つであり、おそらく最も彼らしい一作である。そして、世紀末耽美派文学の代表作でもある。このテキストは、英文「サロメ」のオリジナル・ヴァージョンであるダグラス版を使用し、初版の折のオーブリー・ピアズリーの個性的な挿画入りである。

英語の音声と表現

ロジャー・フィンチ 共著

—コミュニケーションの基礎—

水野 満

A5判・並・130頁 定価1,300円

米語の聴き取りと発声訓練の体系的書。音声と慣用表現が楽しく学習できる親しみの持てる学習書である。

シリーズ「中世英文学シンポジウム」

チョーサーとキリスト教 第1集

■B6判・並 159頁・定価1,000円

〔執筆〕 齋藤 勇・都留 久夫・二村 宏江・吉田 和夫

田巻 敦子・武井久美子・繁尾 久

「バースの女房」をめぐる 第2集

■B6判・並 180頁・定価1,200円

〔執筆〕 繁尾 久・都留 久夫・三好 洋子・松田 英

高宮 和行・岡本 栄一・池上 忠弘・河崎 征俊

中世イギリス文学と説教 第3集

■B6判・並 150頁・定価1,000円

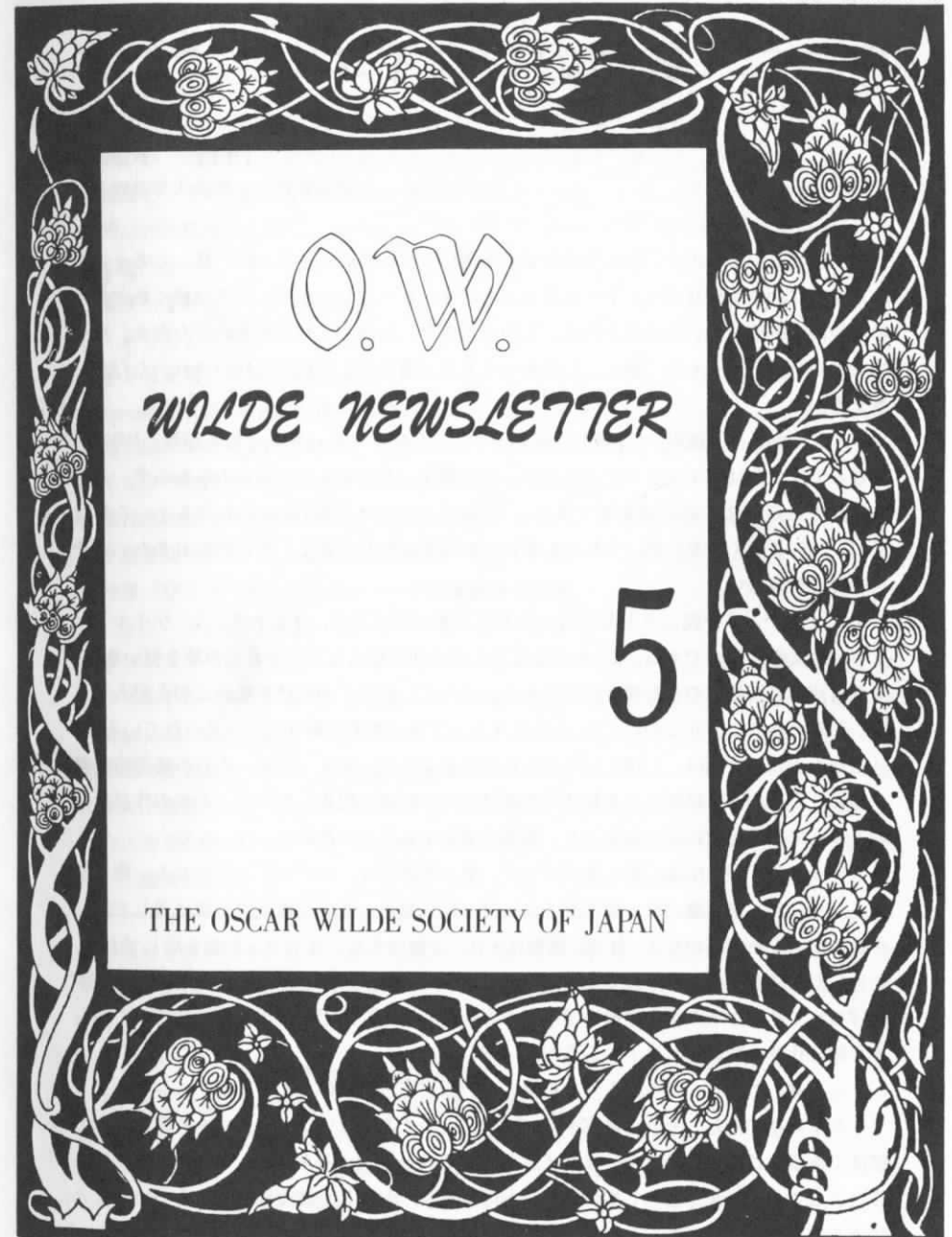
〔執筆〕 齋藤 勇・海老 久人・大場 啓蔵・藤井 健夫

吉田 和夫・ダイクストラ三好

学書房出版株式会社

〒153 東京都目黒区中目黒4-10-5

電話 (715) 1191(代表)



日本ワイルド協会

ワイルド ニュースレター5

最高のレクイエム

西村 孝次

(協会顧問・元明治大学教授)

もし伝記というものを、ひとつの対象たる逝にし者へのレクイエムの一種、と考えられるとすれば、まさにリチャード・エルマンの『オスカー・ワイルド』こそはワイルドのための最高の鎮魂歌といえるであろう。しかもエルマン自身、これを書きあげた直後、昨年の5月13日に69歳をもって歿し、したがって本書は遺著として10月に刊行され、ただちに版を重ねた。

『イエーツ：人と仮面』(1949年)および『ジェイムズ・ジョイス』(訂正新版, 1982年)と並んで、これはエルマンの「アイルランド三部作」をなすものであるのみならず、おそらく、もっともすぐれた終結篇である。『ジョイス』の本文744頁にくらべると、これは554頁で200頁近く少ないが、それでも手にとればずっしりと重く、その内容もまたいっそう新鮮で興味深い。

エルマンがここで説こうとしたのは、およそ次の点である。すなわち、1. ワイルドはイギリス文学の原点である。2. かれは文字どおり19世紀人として19世紀の幕を引いたが、それと同時に20世紀の幕を開けたのである。さらにいえば、かれは本質的に20世紀人であり、われわれのひとりなのだ。3. かれはほとんど常に唯美主義者とだけ見られているが、「しかしかれの主題は、しばしば考えられているような、人生(生活)からの藝術の分離(絶縁)ではなく、経験による藝術への避けがたい糾弾(問責)なのだ。かれの作品は必ずといってよいほど仮面を剥ぎとり、真実を暴露することに終わる」(p. xiv)。

『ジョイス』が、序論、第1部ダブリン、第2部ポーラ、ローマ、トリエスト、第3部チューリッヒ、第4部パリ、第5部チューリッヒへ還る、という構造で、章は通して37、それにノートと索引が付き、頁毎に偶数は年代、奇数はそれに該当する年齢を示しており、こうした形式はそのまま本書でもつけられていて、各章のはじめに作品からの引用文が掲げられてそれがその章の主題を予示する点も同じだが、ただひとつ本書のほうが、いっそう細分化され精密化されている点が違う。

もっと違っている、いや、もっとも違っているところは、いうまでもなく、ジョイスとワイルドの差である。それは換言すれば両者にたいするエルマンの関係であり距離であり態度である。これらの変化を、まずイエーツ、それからジョイス、そしてワイルドに即してたどることが伝記作者としてのエルマンの微妙な、しかし正確な変貌をあとづけることになるであろう。いずれ、これをわたしは『英語青年』の4、5、6月号で試してみたいと考えている。

目次

(巻頭言) 最高のレクイエム	西村 孝次	2
芸術家としての批評家——ペイターからワイルドへ——		
第12回秋期講演要旨	富士川義之	4
観て想う——ラスキン・ペーターからワイルドへ		
第9回夏期セミナー講演要旨	澤井 勇	6
ワイルドとモーム		
第9回夏期セミナー講演要旨	佐藤 喬	8
Pleasure が大切——「真面目が大切」試論——		
第12回秋期研究発表要旨	佐藤 真二	10
ワイルドの初期の詩について——‘Theoretikos’を手がかりに——		
第12回秋期研究発表要旨	岩永 弘人	12
第9回夏期セミナー・シンポジウム要旨		
特集「ワイルドをめぐる人々——その美意識の系譜—— ——ラスキン・ペーター・ワイルド——」		
ラスキン・ペーター・ワイルド	都築 佑吉	14
ワイルドの〈純粹・自立〉文学観——ラスキンとペーターのあいだで	玉井 暉	15
Ruskinism Oscarised	井村 君江	18
昭和62年度夏期セミナー、秋期講演会記録		20
ワイルド書誌	木村 克彦	21
協会・会員消息	深澤 清	22
編集後記		

◇本協会も創立13年を迎え、益々発展しつつありますが、なお一層の飛躍を期すため、次回大会を関西地区で開催することになりました。詳細につきましては後日連絡致しますので、皆様の参加をお願い致します。

【秋期講演と研究発表の会】

日 時 昭和63年11月19日(土) 午後1時30分
場 所 園田学園女子大学 AVホール
〒661 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1
問い合わせ先 堀江研究室(電話 06-429-1201)
又は堀江宅(電話 0797-23-6690)
交 通 機 関 阪急神戸線塚口駅下車 南へ徒歩8分